

北海道における神経難病リハビリテーション ネットワーク構築の試み

～北海道神経難病リハビリテーション研究会の活動報告～

中城雄一¹⁾、坂野康介¹⁾、藤田賢一¹⁾、徳永典子¹⁾、加藤恵子¹⁾

濱田晋輔²⁾、森若文雄²⁾

¹⁾北海道神経難病研究センター 神経難病リハビリテーション部門・

北祐会神経内科病院リハビリテーション課

²⁾北海道神経難病研究センター・北祐会神経内科病院医務部

はじめに

平成23年7月に北海道における神経難病医療と環境の発展を図ることを目的に、一般財団法人北海道神経難病研究センターを設立。その研究部門の1つとして平成24年12月に北海道神経難病リハビリテーション研究会を設立した。

北海道神経難病リハビリテーション研究会の目的

- 神経難病と神経難病に対するリハビリテーションの知識と技術の向上とする.
- 神経難病リハビリテーションのエビデンスを構築する.
- 神経難病にかかわるセラピストのネットワークを構築する.
- 神経難病リハビリテーションに関する学術集会を開催する
(年1回)
- その他必要と認める事業とする.

活動報告① 講演会

第1回 北海道神経難病リハビリテーション研究会 講演会

知ればこわくない！
パーキンソン病のリハビリテーション

日時：2013年3月17日(日)
開場/12:30 開会/13:00~16:00

場所：札幌市医師会館 5階大ホール
札幌市中央区大通西19丁目

定員250名(参加費無料、事前申し込みなし)
*リハビリテーションに関わる職種の方を対象とします。

講演Ⅰ

「パーキンソン病のリハビリ処方」

講師：
滋賀県立成人病センター リハビリテーション科部長

中馬孝容先生

リハビリテーション専門医・神経内科専門医

座長：本間早苗 北海道神経難病研究センター 理事

講演Ⅱ

「エビデンスを活用したリハビリの実際」

講師：
文京学院大学保健医療技術学部 理学療法学科教授

望月久先生

理学療法士

座長：中城雄一 北海道神経難病研究センター 理事

主催：一般財団法人北海道神経難病研究センター
後援：札幌市医師会、公益社団法人北海道理学療法士会、
公益社団法人北海道作業療法士会、北海道言語聴覚士会

問い合わせ：北海道神経難病リハビリテーション研究会
事務局 中城雄一
tel:011-631-1161 fax:011-631-1163
E-mail: y-nakashiro@hokuyukai-neurological-hosp.jp
http://www.hokkaido-find.jp

＜感想＞

- 今後も神経難病リハビリテーション研究会の企画に参加したいと思いました。
- 早速デイサービスに来てくれるパーキンソン病患者さんに還元したいです。
- 臨床場面で困っている事がなかなか相談できないことが多く、このような場があって良かったです。
- 自主トレをどううまく患者さんに伝えるか勉強になりました。
- どちらの講演もとても参考になりました。2回目も楽しみにしています。
- 神経難病患者の在宅療養環境整備に取り組んでいます。地域でのリハ環境が課題です。

139施設 19市7町から323名の参加 アンケート回収数185枚 回収率74%

- 講演Ⅰ：95.1%が良いと回答。残りはすべて普通
- 講演Ⅱ：78.9%が良いと回答。16.2%が普通、1%が悪い、未記入：3.7%
- 神経難病に関わるセラピストのネットワーク(コミュニケーションの場)に参加したいか？
参加したい：60%、参加したくない：2.7%、わからない：29.7%、未記入：7.5%

本研究会への希望(記述式) 回答数

SCD・MSAに関する研修会開催	28件
ALSに関する研修会開催	15件
症例検討会の開催	9件
実技に関する研修会開催	7件
摂食・嚥下障害	5件

第2回 北海道神経難病リハビリテーション研究会 講演会

なるほど！
神経難病の摂食・嚥下リハビリテーション

日時：2013年10月27日(日)

開場／12:30 開会／13:00～16:00

場所：札幌市医師会館 5階大ホール
札幌市中央区大通西19丁目

駐車場のご注意は
ありません。ご来場の際は、
公共の乗り物をご
利用ください。

定員300名（参加費無料、事前申し込みなし）

終了後に情報交換会があります

＊リハビリテーションに関わる職種の方を対象とします。

講演

座長：中馬孝幸 先生
道庁県立成人病センターリハビリテーション部 部長

「神経内科疾患に伴う嚥下障害」

講師：

医療法人医仁会 中村記念病院 耳鼻咽喉科 医師

小西正訓 先生

シンポジウム

座長：小西 正訓 先生

「様々な環境でのリハビリテーションの実際」

「神経内科専門病院におけるアプローチ」

北祐会神経内科病院 言語聴覚士 藤田 賢一 氏

「訪問リハビリテーションにおけるアプローチ」

秀友会 在宅リハビリテーション部 言語聴覚士 大澤 真理 氏

「地域の基幹病院におけるアプローチ」

花川病院 言語聴覚士 遠藤 朱美 氏

主催：一般財団法人北海道神経難病研究センター
後援：札幌市、札幌市医師会、北海道看護協会、北海道言語聴覚士会
北海道理学療法士会、北海道作業療法士会

問い合わせ：北海道神経難病リハビリテーション研究会
事務局 中城雄一

tel:011-631-1161 fax:011-631-1163

E-mail: y-nakashino@hokuyukai-neurological-hosp.jp
http://www.hokkaido-fnd.jp

<感想>

- 在宅で神経難病患者に関わっています。医療と福祉の重要性を常々感じています。研究会の講演は役立っています。
- 研修会や症例検討会などがありましたら是非参加したいです。
- 開催をもっと増やして実際のアプローチなどを見てみたいです。
- 一般の方でも参加できる機会を作って頂きありがとうございます。
- 臨床場面で疑問に思っていたことが再確認でき大変勉強になりました。

79施設 13市5町から157名の参加

アンケート結果：回収数108枚 回収率68.7%

- ・ 講演：90.7%が良いと回答。普通：6.4%、未記入：2.7%
- ・ シンポジウム：64.8%が良いと回答。普通：24%、悪い：1.8%、未記入：9.2%
- ・ 研究会が行う「小さな研修会」や「症例報告会」などに参加したいと思いますか？
参加したい：65.7%、参加したくない：0%、わからない：7.4%、未記入：26.8%

本研究会への希望(記述式)

回答数

嚥下に関する研修会	6件
ALSに関する研修会	5件
呼吸リハに関する研修会	5件
リハ栄養に関する研修会	4件
コミュニケーションに関する研修会	4件
在宅アプローチに関する研修会	4件
症例検討会	4件

第3回北海道神経難病リハビリテーション研究会講演会

よくわかる!

高次脳機能障害 パーキンソン病の

日時：
2014年7月13日(日)
受付開始／12：30
開 会／13：00～15：45

場所：
札幌市医師会館 5階大ホール
札幌市中央区大通西19丁目
(地下鉄西18丁目 1番出口側)

定員：300名
参加費：無料

駐車場の用意はありません。
ご来場の際は、公共の乗り物
をご利用ください。

対 象：
リハビリテーションに関わる
職種の方、一般の方
(事前に申し込みの必要はありません)

主 催：一般財団法人北海道神経難病研究センター
事務局：北海道神経難病リハビリテーション研究会 (担当 中城 雄一)
TEL:011-631-1161 FAX:011-631-1163
E-mail: y-nakashiro@hokuyukai-neurological-hosp.jp
URL: http://www.hokkaido-1nd.jp

後 援：札幌市医師会、北海道医師会、北海道理学療法士会、北海道作業療法士会、北海道言語聴覚士会

講 演 13：00～14：20

パーキンソン病の高次脳機能障害

講師：北海道大学大学院保健科学研究院
准教授 大槻 美佳 先生



座長：濱田 晋輔
北海道神経難病リハビリテーション研究会代表理事

パーキンソン病では運動機能障害に加え、様々な認知機能障害がみられます。これらの認知機能障害の基盤は、前頭葉～基底核系の機能低下と考えられています。しかし、この前頭葉～基底核系に關わる機能は複雑で、その障害は、具体的にどのような症状として現れ、どのようにアプローチすべきなのか、わかりにくい面もあります。そこで、今回は、前頭葉～基底核系の機能の基盤を解説したのち、実際のパーキンソン病患者さんにおける障害とそのメカニズム、対応方法を考察したいと考えています。

【講師紹介】

1988年 北海道大学医学部卒業、神経内科入局
2011年 北海道大学大学院保健科学研究院
日本神経心理学会理事
日本高次脳機能障害学会理事

症例検討 14：30～15：45

経過とともに出現した高次脳機能障害に対して早期介入した一症例

座長：田村 至 先生
北海道医療大学心理科学部言語聴覚学科准教授

症例はパーキンソン病発症後、経過6年目に物忘れの訴えがあり、軽度の記憶力低下、注意障害などの高次脳機能障害を呈した60歳代の方です。評価及び治療を通じて実感した、早期発見の重要性やリハビリテーションの有効性を報告します。その後、ステージ上でリハビリテーション関連職種の方々とディスカッションします。フロアからも様々なご意見を宜しくお願ひいたします。

症例提供者：北祐会神経内科病院
作業療法士 桑原 拓己 氏
総 括：大槻 美佳 先生

<感想>

- 具体的な講演でとても興味深く学ぶことが出来ました。
- 無料で聞けたことが良かった
- 症例検討はディスカッション形式は良かったと思います。
- 函館など地方でも開催してほしい
- 今日の講演を聞いて治療に役立てていきたいと思います。
- GW的なセッションがあると議論が白熱すると思います。
- PDの遂行機能障害について考え方や対処方法を見つけていく手流れが分かりました。

115施設 16市5町1村から301名の参加

アンケート結果：回収数211枚 回収率70%

- 講演：93.3%が良いと回答。普通：5.6%、悪い：0.4%、未記入：0.4%
- 症例検討会：42.1%が良いと回答。普通：38.3%、悪い：9%、未記入：10.4%
- 研究会が行う「小さな研修会」や「症例報告会」「座談会」などに参加したいと思いますか？
参加したい：66.3%、参加したくない：0.4%、わからない：18.4%、未記入：14.6%

本研究会への希望（記述式） 回答数

*	SCD・MSA関する研修会	16件
	高次脳機能障害に関する研修会	12件
	パーキンソン病に関する研修会	10件
*	地域連携・在宅リハに関する研修会	10件
	症例報告会	9件

活動報告② 座談会

神経難病に関わるセラピストのネットワークの構築(コミュニケーションの場)として座談会を開催。



図1: 座談会参加病院

- 1: 北祐会神経内科病院 2: 市立札幌病院
3: 札幌山の上病院 4: 北海道医療センター
5: 札幌西円山病院

第2回座談会	平成25年9月19日	参加47名	病院紹介
第3回座談会	平成25年11月21日	参加58名	病院紹介
第4回座談会	平成26年2月18日	参加60名	病院紹介+GW
第5回座談会	平成26年5月23日	参加40名	GW「神経難病におけるリハビリの位置づけ ～患者・家族・他職種から求められること～」
第7回座談会	平成26年9月26日	参加36名	GE「切れ目のないサービス提供 ～セラピスト間の除法共有～」
第8回座談会	平成26年11月28日	参加28名	GW「看護師との連携 ～うまくいった事、いかなかった事」

参加は第1回から4回まではクローズ。第5回からはセミクローズで行っている

第1回座談会

平成25年7月24日(水) 18:30~20:00 場所:北海道神経難病研究センター会議室
テーマ:「近所の神経内科のセラピストと仲良くなる」

参加者:53名(PT:28名、OT:15名、ST:10名)

- ＜内 容＞
- ・ 全員の自己紹介
 - ・ 12名の代表者が中心となって発言
 - ・ それぞれの職場での設備や業務体制、システム、評価、治療、家庭訪問、家族指導などに関する事を話合った。
- ＜感 想＞
- ・ 各病院の話が聞けて良かった。もっと深く話したかった。
 - ・ セラピー内容や評価項目についてもっと話したい。
 - ・ 症例検討会をしたい
 - ・ グループワーク(GW)だともっと話し合える
 - ・ PT,OT,STごとの情報交換がしたい

第1回座談会の様子



テーマ「難病ケアで困っている事、楽しかった事」

参加者：42名（PT:17名、OT:14名、ST:11名） グループワーク（GW）を実施。

8施設が参加

<楽しかった事>

- ・ 家族から評価された時や患者の笑顔が見れた時
- ・ 目に見える結果が出た時、患者の反応を引き出せたとき
- ・ 介入により維持が出来た時。セラピストならではの細かなところに気づけたとき。
- ・ 関わりが長いので、一緒に人生を歩んでいるような良い部分もある
- ・ 患者との信頼関係が出来、結婚式に呼ばれた
- ・ 絶食の人に食べさせてあげることが出来た時

<困ったこと>

- ・ 患者さんのリハビリへの期待が大きく現実的ではない
- ・ 進行していく疾患に対してのリハが分からない
- ・ 症状の進行に対して患者から説明を求められた時
- ・ ALS患者の死に対する発言があった時
- ・ 嚥下障害が進行し、経管栄養への移行のタイミングが分からない
- ・ リハ場面での動きと病棟での動きが異なり困っている。
- ・ 心理面のサポートをどうしていいのか困った

Q:座談会はこのままの形式で継続すべきですか？
このままで良い:35 (85%) 変更すべき:4 その他:2

Q:グループワークで取り上げたいテーマは？

- ・ 症例検討
- ・ 地域・施設間連携、退院調整
- ・ 神内のリハに関わることなら何でもいい。
- ・ 患者家族対応
- ・ 評価治療の工夫
- ・ 経口を行うタイミング
- ・ 1つの疾患に対するGWなど

Q:座談会はコミュニケーションの場として役立っていますか？

役立っている:25 まあまあ役立っている:14
役立っていない:0 その他:1 未回答:1

- ・ 横のつながりが出来た
- ・ 相談がしやすくなった
- ・ 若手セラピストの考えていることが分かった。
- ・ GWは発言がしやすい
- ・ ベテランのアドバイスが役にたった
- ・ 転院する患者さんに知り合いがいることを伝え、安心してもらった。

Q:どのように改善、発展するといいでしょうか？

- ・ 参加施設を増やす。
- ・ 多職種との交流を増やす
- ・ GWの時間を延長する
- ・ 治療に還元できるテーマを行うとよい
- ・ コミュニケーションの場の他に学術面も取り上げる
- ・ 症例発表
- ・ 病院連携

Q:北海道における神経難病リハビリテーションの発展のために、今後どのような活動が必要と思いますか？

- ・ 症例検討会、学会、講演会の開催。
- ・ リハ職以外との関わりを持つ
- ・ 札幌市全区、札幌市以外への出張座談会や講演会
- ・ 一般、患者を含めた座談会や講演会
- ・ 通所や訪問スタッフなど参加施設を増やす。
- ・ 活動の社会的認知を高める
- ・ 患者さんを切れ目なくフォローできる体制を作る
- ・ 色々な病院合同で企画したい

第7回座談会のアンケート結果

アンケート 回収 32／36

Q:座談会の良い所を上げて下さい

顔の見える関係が作れる	14件
気楽なところ	9件
他施設との情報交換	5件
それぞれの立場での生の声が聴ける	5件
ネットワークの広がり	3件
意見や経験などの話し合いが出来る	3件
先輩の体験を聞く事が出来る	3件
疑問を投げかけられる	3件
グループワークが良い	2件
勉強になる	2件
飲み会があるから	2件
臨床最前線の話が聞ける	1件
セミクローズなところ	1件
勉強会ではないところ	1件

Q:座談会の悪い所を上げて下さい

時間が短い	5件
全員と話せない	2件
グループワークの発表内容を読み返したい	2件
グループワークの発表が堅苦しい	1件
話が脱線してモヤモヤする	1件
愚痴の言い合いになる	1件
メンバーが固定してきている	1件
他職種が少ない	1件
席に偏りがある	1件
臨床技術の向上はできない	1件

Q:座談会に対する満足度を教えて下さい。0～10(満足)

0～5:該当なし 6:2名 7:6名 8:15名 9:4名
10:3名

【まとめと考察】

- 神経難病のリハビリテーションに特化した講演会、シンポジウム、症例検討会は貴重な機会になっている事が分かった。
- 札幌近郊以外の地域から参加があり、本研究会に対するニーズは道内全域にあると感じた。
- 本研究会への希望ではSCDやALSなど疾患に関する講演の希望や呼吸リハ、リハ栄養、コミュニケーション、地域連携などリハビリテーションの実践的な講演を希望する回答があった。
- アンケート結果から顔の見えるネットワークづくりを希望するセラピストが多くいることが分かった。また、座談会はGWを主体に行っている事が参加者から評価を得ており、このまま継続しても良いことが確認できた。
- 神経難病患者がどの地域で暮らしても、医療から介護、在宅において切れ目のない、質の高いリハビリテーションを受けられるように、顔の見えるネットワークを構築していく必要があり、全道レベルで拡大が必須である。来年度は札幌市以外でも活動を試みたいと考えている。

ご清聴ありがとうございました。

発表スライドはHPでも確認できます。

<http://www.hokkaido-find.jp/>

座談会へのお問合せは、

zadan-kanji@hokkaido-find.jp までお願いします。

